



平成 27 年 8 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ
代表者名 代表取締役社長 リム・キム・リン
(コード：9704 東証第1部)
問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹
(TEL. 03-3436-1860)

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

平成 27 年 12 月期第 2 四半期累計期間（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日）において、特別損失を計上することといたしましたのでお知らせするとともに、平成 27 年 4 月 30 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

平成 27 年 6 月 19 日付「証券取引等監視委員会による課徴金納付命令の勧告について」にてお知らせしましたとおり、有価証券報告書等の訂正に関して、証券取引等監視委員会から内閣総理大臣および金融庁長官に対して、金融庁設置法第 20 条第 1 項の規定に基づき、当社に対する 137 百万円の課徴金納付命令を発出するよう勧告を行った旨の公表がなされましたことにより、同額を課徴金引当金繰入額として計上いたしました。

また、平成 27 年 7 月 31 日付「金融庁による課徴金納付命令の決定について」にてお知らせしましたとおり、本課徴金に関しては、納付期限を平成 27 年 10 月 1 日とする旨の決定を受けております。

2. 業績予想の修正について

(1) 平成 27 年 12 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正
(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	3,600	140	130	10	0円04銭
今回修正予想 (B)	3,880	220	115	△230	△0円84銭
増減額 (B-A)	280	80	△15	△240	
増減率 (%)	7.8	57.1	△11.5	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 12 月期第 2 四半期)	3,366	△45	△139	△195	△0円71銭

(2) 平成 27 年 12 月期通期連結業績予想値の修正

(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	8,000	430	330	80	0 円 29 銭
今回修正予想 (B)	8,000	430	330	△150	△0 円 55 銭
増減額 (B－A)	—	—	—	△230	
増減率 (%)	—	—	—	—	
(ご参考) 前期連結実績 (平成 26 年 12 月期)	7,503	126	257	46	0 円 17 銭

(3) 平成 27 年 12 月期第 2 四半期 (累計) 個別業績予想値の修正

(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	60	30	△40	△0 円 15 銭
今回修正予想 (B)	90	35	△160	△0 円 58 銭
増減額 (B－A)	30	5	△120	
増減率 (%)	50.0	16.7	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 12 月期第 2 四半期)	56	31	28	0 円 10 銭

(4) 平成 26 年 12 月期通期個別業績予想値の修正

(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	130	80	10	0 円 04 銭
今回修正予想 (B)	130	80	△110	△0 円 40 銭
増減額 (B－A)	—	—	△120	
増減率 (%)	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 12 月期)	188	195	122	0 円 45 銭

3. 業績予想の修正の理由

(1) 連結業績について

平成 27 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間の売上高は、好調な外国人観光需要を追い風とした、宿泊事業の売上高増加等により、前回予想を上回る 3,880 百万円となる見込みです。利益面では、前述の売

上高の増加等により、営業利益は前回予想を上回る 220 百万円となる見込みですが、営業外損失として為替差損等の計上により、経常利益は前回予想を若干下回る 115 百万円となる見込みです。また、特別損失として課徴金引当金繰入額を計上したことに加え、宿泊事業の業績が好調に推移し、ホテル資産保有を目的とした匿名組合における共同出資者に対する収益分配部分としての匿名組合損益分配額が増加したことにより、230 百万円の四半期純損失となる見込みです。

通期連結業績予想につきましては、売上高、営業利益、経常利益は前回予想通りの見通しであります。当期純利益は、第 2 四半期（累計）の連結業績予想を踏まえて修正いたしております。

（2）個別業績について

平成 27 年 12 月期第 2 四半期個別累計期間の売上高は、証券投資事業の寄与により前回予想を上回る見込みですが、利益面では、特別損失として課徴金引当金繰入額を計上したことにより、四半期純利益が前回予想を下回る見込みです。

通期個別業績予想につきましては、売上高、経常利益は前回予想通りの見通しであります。当期純利益は、第 2 四半期（累計）の個別業績予想を踏まえて修正いたしております。

（注）上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上